

やまと通信

やまと石材がお届けする、手作り新聞

vol.186
2021.9

〔特集〕

青龍寺・中門の落慶法要に 参加いたしました

1・2ページ

奥が深い！お仏壇の仏具

意味がわかると、気持ちが変わる？

3ページ

秋彼岸直前！

「お彼岸」ってナニ！？

4ページ

あっ！これ見たことある！

「親柱」ってなあに？

5ページ

お客様の声

6ページ

「大切な人に贈りたい」語りつがれる絵本

良きご縁をありがとうございます

7ページ



私はサファイアです



唐突ですが、あなた様の誕生月は何月ですか？「9月です！」とお答えになられた方はサファイアです！・・・そう！ズバリ誕生石の事です（他にもラピスラズリがあります）。

ブルー系の落ち着いた色合いから、9月生まれの方は「調和を重んじ、優雅なムードを作り出す」ことに長けていると言われているそうです。かく言う私（平田）も9月生まれのサファイアです。

いずれにしても、自分の誕生石を身に付けていると、災いを防ぎ幸運を呼び込んでくれるそうです。石って素晴らしい！・・・という結論でした。

〔特集〕

青龍寺・中門の落慶法要に参加いたしました



弘前店営業部 三浦 淳

皆様こんにちは弘前店営業部の三浦です。

やまと石材弘前店と言えば、なんと！この9月でおかげさまでオープン3周年を迎えることが出来ました。これもひとえに地域の皆様方の支えがあつてのたまものです。心より感謝申し上げます。

さて、突然話は変わりますが、今年の6月のことです。青森市にあります、昭和
大仏で有名な青龍寺様で「中門」の落慶法要が執り行われました。

また一つお手伝い

やまと石材では今回の中門の建立工事にあたり、石材の納入と石貼り工事を担当させていただきました。実はこれまでも永代供養墓や、中門に通じる参道の石貼り工事など、多くの石工事をさせていただいた実績がございます。また一つお手伝いが出来たことに嬉しさもひとしおです。



迫力のある中門が出迎えてくれます。
法要前の落ち着いた佇まいです。



参列者も席に着き、いよいよ法要のはじまりです。

日常から一步離れて・・・

当日は、県内はもとより、遠くは高野山真言宗宗務総長をはじめ、数多くの僧侶の方々が法要に参加されました。煌びやかな袈裟を身にまとった僧侶の姿は、日常では目にすることのない荘厳な雰囲気醸し出しております。

また、青森では最もお忙しいお一人であろう小野寺市長もお祝いに駆けつけておりました。



空には華やかな風船が浮かび上がり、気持ちもワクワクしてきます。



見事な袈裟をまとった僧侶の登場です。カラーでお見せ出来ないのが残念！

「無言の説法」を感じ取る！？

青龍寺様には昭和大仏をはじめ、金堂・五重塔・高野山青森別院、さらには今回の中門など、境内にはさまざま立派な伽藍があります。

開山隆弘師の言葉として、住職がよくおっしゃいますが、「伽藍が無言の説法をする」これは、「伽藍の発する説法に耳を傾け、心静かな癒しのひと時を感じ取っていただきたい」という事なのだそうです。

邪念だらけの私などには、感じ取るすべはないのですが、なんとなくわかるような気がしないでもないのです・・・



最後に僧侶の皆さんでパチリ！どことなく安堵感も感じます。



恥ずかしながら「感謝状」を頂きました。これを励みに頑張ります！

以上「中門」の落慶法要参加のご報告でしたが、更にもう一つうれしいことがありました。なんと青龍寺様から、今回の工事に伴い感謝状と記念品を頂いたのです！ありがとうございました。

何はともあれ、皆様も機会がありましたら一度ご覧いただき、その迫力を感じてください。

奥が深い！お仏壇の仏具

意味がわかると、 気持ちが変わる？



ショールーム課 西村 葉子

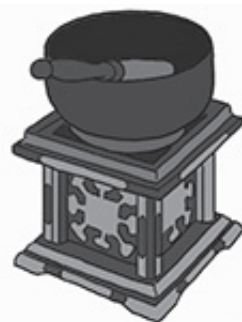
こんにちは。ショールーム課の西村です。

間もなく秋のお彼岸ですね。

そんな秋彼岸を前にちょっとした仏具のお話を・・・

心に沁みた良い話

仏具など宗派によって様々ではありますが、形は違っても必ずといってあるのが「りん」ですね。今まであまり意味合いなど考えず「りん」と鳴らしていましたが、以前「りんはあの世と仏壇をつなぐ物」というお話を聞く機会がありました。その講演をされた方は奥様に先立たれておりました。しかし、人は死んでも魂は残っているのですから、奥様が亡くなって「寂しい」けれどそばに居てくれると思うと「悲しみ」はないとおっしゃっていました。そのお話を聞いてから私の毎日の「りん」は少しばかりゆっくり鳴らすようになった気がします。



それぞれの仏具に意味合いがあり、それを知って使うかどうかで大きな違いがあるように思います。



手を合わせる時の気持ちが変わります

香炉は、線香や抹香を焚くための道具です。お香の香りが拝む人や家中に隅々まで行き渡らせることから、仏さまの慈悲を表しているといわれるものです。仏さまの慈悲に包まれることで、日々の煩惱や汚れた日常生活を清めていただけるのだそうです。



そして次に燭台。燭台はろうソク立てのことですが、ろうソクに火を灯すのは仏さまの「智慧」を意味しているのだそうです。すなわちろうソクを灯すということは、仏様のお智慧によって人間を導いていただくことを指すとされています。



私たちの生活は、すべては仏さまがいるからこそ成り立っています。そのことに感謝しながら、これからもお仏壇に向かって手を合わせていきたいとします。

秋彼岸直前！

「お彼岸」ってナニ!?



青森店営業部 平田 響子

お彼岸には春彼岸と秋彼岸があります。それぞれ春分の日、秋分の日を中日として、その前後3日を合わせた7日間を彼岸と呼びます。これは皆さんご承知の事かと思います。

では、なぜお彼岸にお墓参りをするのでしょうか。

春分と秋分は太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じ日ですよね。実はお彼岸にお墓参りに行く風習は、この太陽に関係しているといわれています。

仏教では、生死の川を渡って到達する悟りの世界を彼岸といい、その反対側の私たちがいる迷いや悩みに満ちた世界を此岸（しがん）というそうです。

そして彼岸は西に、此岸は東にあるとされており、太陽が真東から昇って真西に沈む秋分と春分は、彼岸と此岸がもっとも通じやすくなる日と考えられ、ご先祖供養をするようになったということです。

しかし、お彼岸は仏教発祥の地インドや他の仏教国にはないのだそうです。家の中に仏壇と神棚が祭られている日本ならではの独自の仏教行事なのです。

日本では、正月など神道にまつわる行事を行う一方、仏教を説いたお釈迦様の教えも受け入れてきました（神仏融合）。お彼岸は「日願」でもあるため、太陽の神を信仰する神道と結びつきやすかったという説もあるようです。

また春の種まきや秋の収穫とも結びつき、自然に対する感謝や祈りが、ご先祖様に感謝する気持ちにもつながって、お彼岸でのお墓参りは大切な行事となりました。稲作文化の日本ならではの考え方が生まれたのだと思います。

ちなみに・・・

春分の日＝「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」

秋分の日＝「祖先を敬い、亡くなった人を偲ぶ日」

という意味があります。

さあ！秋彼岸直前です。お墓参りの準備は大丈夫ですか？



手桶と彼岸花

あっ！これ見たことある！

「親柱」ってなあに？

皆さん「親柱」という言葉をご存知でしょうか？

皆さんの町の中にも橋があると思います。その始まり（あるいは終わり）にある彫像物がそれです。

「知ってるじゃよ！！」と言われる方もいらっしゃると思いますが、もう少しお付き合いください。一見ただ置いてあるように見えるこの親柱。実はこれ、橋の名前や川の名前、また橋が出来た年月日などが記されているんです。いわゆる橋の情報装置なんですね。もちろん、その橋やまわりのイメージなども考えてデザインをしています（これが結構大変なんです）。



弘前店営業部 寺澤 綾子

まさに「あっ！これ見たことある！！」

これからの季節は少しずつ秋の装いに変化する自然の風景に目を奪われる季節でもあります。八甲田山や岩木山へのドライブは気持ちを晴れやかにしてくれます。そんな中ちょっと視点を変えて、橋を渡る時にこの親柱も注目してみてください（もちろん運転も気を付けて）。

ではここで、まさに「あっ！これ見たことある！！」と声を出してしまう（かもしれない？）親柱を2つご紹介します。

●津軽りんご大橋（弘前市・板柳町）

岩木川を隔てて立地する弘前市と板柳町。この市と町を結ぶ大きな橋が「津軽りんご大橋」です。県内でも有数のりんごの産地ということもあり、インドの赤御影を使用した真っ赤なりんごと、ベージュ色の台座はコントラストが抜群で思わず記念撮影したくなりますよ。



津軽りんご大橋
直径60cm！食べられるとすれば何人分？

●赤岩橋（黒石市）

これは国道102号線を黒石市内から黒石ICを過ぎて、八甲田山に抜ける途中に造られた橋です。テーマはズバリ「こけし」と「紅葉」！！この橋を過ぎてもう少し行くと、有名な「中野のもみじ」が待ってます。地元の方々の思いが、この親柱からも伝わってくるような気がします。



赤岩橋
橋の両脇に「こけし」と「紅葉」がお出迎え。

こうしてみると、本当に色々なデザインや名前があることがわかります。そのうち「鉄道マニア」みたいな感じで「親柱マニア」なんていうのもおもしろいかもしれないですね。

お客様の声

やまと石材に大切なお墓づくりを託していただいたお客様からのおたよりです。
本当にありがとうございました。

今はすがすがしい 気持ちでいっぱいです

平川市・S様

今回 お墓を購入した際は、大変お世話になりました。
2〜3軒見ながら伺いましたが、墓石の事、値段の事
が、すごくわかりやすく説明していただき、この店だと
思い、購入を決めました。

私どもの注文にも快く応じて、何度も
何度も暑い中、家まで来てもらいました。

あかげ様で、とても納得のいく、すばらしいお墓が
出来ました。

毎日、亡くして寂しい気持ちでいたのですが、

お墓を見て、今はすがすがしい気持ちでいっぱいです。
本当にありがとうございました。



白と黒の2種類の御影石を使用した洋型デザインのお墓が
完成しました。お父様が好きだった盆栽をイメージされた彫
刻がとても印象的なお墓です。

担当者からひとこと



弘前店営業部 相内 翔太

S様、この度は誠にあ
りがとうございました。
ご納得のゆくお墓づくり
のお手伝いができ、心か
ら嬉しく思います。これ
から長いお付き合いとな
りますので、今後ともよ
ろしくお願い致します。



「大切な人に贈りたい」 いつまでも語りつがれる絵本

「彼岸花」

林有加 作 長田智佐子 画

この絵本は、1998年の和歌山カレー事件で亡くなった、林大貴君（当時10歳）のお母様が書かれた作品です。

7月、10歳で亡くなった少年の小さな魂は、神様にお願いしました。もう一度だけお母さんに合わせて欲しいと・・・

神様は小さな魂を不憫に思い、願いを聞き入れました。そして言いました。「もし、母がお前を見つけ、母の声を聞くことができれば、いつか再び親子として生まれ変われることを許そう。」

9月半ば、小さな魂は、母との思い出深い彼岸花の姿をかりて、家の近くにひっそりと咲きました。ひろくんとのお母さんの花に引き寄せられるように近づいてきたお母さんは「ひろくん、おかえりなさい」・・・そう言って、涙をこぼしながら花を優しく手で包み込みました。

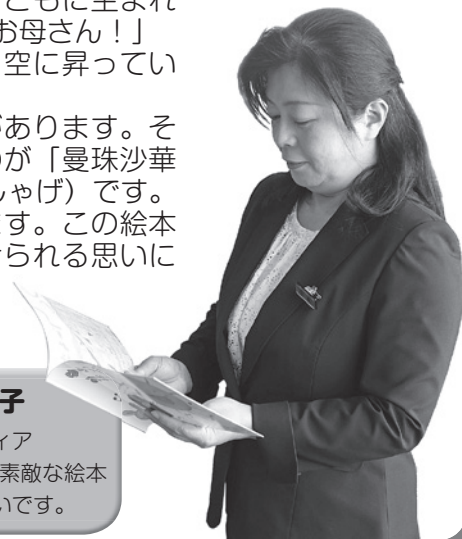
その瞬間、「お母さん、ただいま！いつかまたきつと、お母さんの子どもに生まれてくるからね。ありがとう、お母さん！」

彼岸花は一筋の光となり、空に昇っていききました。

彼岸花には、多くの別名があります。そのうち、よく知られているのが「曼珠沙華（まんじゅしゃく/まんじゅしゃげ）です。天上に咲く花と言われています。この絵本を読むたびに、心が締め付けられる思いになります。

ショールーム課・佐藤江里子

絵本の読み聞かせボランティアを続けて10数年。心に響く素敵な絵本を少しでも紹介できれば幸いです。



良きご縁をありがとうございます

青森市栄町	北津軽郡板柳町赤田	弘前市笹館	青森市大野	青森市浪館前田	青森市油川	北津軽郡中泊町小泊	青森市松森	青森市古館	青森市緑	黒石市花巻	弘前市取上	青森市久須志	青森市千富町	弘前市浜の町	上北郡六ヶ所村泊	十和田市西二十一番町	下北郡大間町大間	東津軽郡平内町口広	五所川原市高野	神奈川県川崎市高津区	青森市原別	つがる市木造	北津軽郡板柳町三千石	五所川原市相内
栗林様	三上様	澤田様	樋口様	渡邊様	中崎様	山田様	前田様	東様	工藤様	村上様	吉川様	阿部様	蝦名様	石戸谷様	高橋様	沼岡様	佃様	船橋様	堀内様	小野様	白取様	布施様	対馬様	神嶋様

※今月号で紹介しきれなかったお客様は、また次の機会に掲載いたします。

編集後記

今年の夏は、ガツンと暑い日が続いたかと思うと、ブルっと肌寒くなったりと去年とは様相が違う夏だったように感じます。これからは徐々に秋風が吹いてくる季節です。コロナ対策は勿論ですが、普通に風邪対策も心がけたいものです。

(佐々木)

Landwork 日本最大36店舗の
ランドワークグループ 墓石専門店グループ



墓石と仏壇

やまと石材

【青森本店】〒030-0946 青森市古館1-13-13
TEL. 017-744-1488 FAX. 017-765-1388

【弘前店】〒036-8076 弘前市境関1-1-1
TEL. 0172-27-1455 FAX. 0172-27-1492

E-mail info@yamatoosekizai.com

友達募集、今すぐ登録！



青森 やまと石材

検索